

普及活動情勢報告（平成29年1月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

J A土佐香美花卉部会トルコギキョウの現地検討会



開花状況を検討中の生産者

1月12日、J A土佐香美花卉部会のトルコギキョウ生産者は現地検討会を開催し、生産者9名とJ A・農業改良普及課・農業技術センターの関係機関が参加しました。

年末から全戸の出荷が始まったことから全ほ場を巡回して、本年度の開花状況や今後の管理について検討しました。本園芸年度では、開花が1ヶ月以上早まり、2～3月開花予定の品種でも開花が始まっている状況です。農業改良普及課と農業技術センターからは早く終了したほ場で2度切り栽培による2番花の収穫を提案しました。

農業改良普及課は、今後もトルコギキョウ切り花の生産性向上に向けた支援を行っていきます。

ニラ調製作業の省力化に向けて ～現地導入事例の収集ととりまとめ～



感想などの聞き取り調査

ニラ栽培では、収穫後の調製作業が全労働時間の80%を占めています。調製作業は高齢者が担っていますが、作業員の確保が困難となり、最盛期には刈り遅れが発生したり、場合によっては廃棄や栽培を打ち切ったりしています。

農業改良普及課とJ Aでは、労力不足を解消するため、調製作業を省力化する調製作業機の導入を推進しています。H27、H28年度には事業を活用して33台導入されました。

現在、その活用状況や工夫点、感想などを調査し、事例集として取りまとめています。

今後、事例集をもとに調製作業機の効率的な活用方法を提案し、さらなる導入に向けて支援していきます。

農業の魅力を発信！ ～高知農業高校の出前授業から～



農業の魅力を語る生産者

1月11日、県立高知農業高校で1年生41名を対象に、就農を喚起するため、農業改良普及課では農地・担い手対策課、生産者代表とともに出前授業を開催しました。

農業改良普及課からは、地域の野菜生産の概要や、環境保全型農業、環境制御技術の取り組みを説明しました。生産者からは、農業を選んだ経緯や雇用就農から独立就農までの経験談、就農後の経営と今後の目標や夢など農業の魅力を紹介しました。生徒たちは熱心にメモを取りながら聞いていました。

農業改良普及課は、今後も担い手を確保・育成するための取組を実施していきます。

集落の農地を守る仕組みづくりに向けて ～集落のほ場等現地確認～



現地の状況等を地図に書き込む様子



狭く危険な水路の作業道

1月10日に香美市香北町日ノ御子集落で、中山間直払協定の役員ら5名と関係機関6名では場や作業道等の現地確認を行いました。

今年度から中山間直払協定面積が大幅に増加する等の前向きな意向を捉え、集落営農の意識啓発を行った結果、「担い手が定着するにはほ場整備が重要」との意向に基づき実現しました。

皆で現地を確認しながら、基盤整備課職員の専門的な視点で現状や課題等を整理し、有効な支援策の概要説明と営農意向調査の提案を行いました。

集落の方から「確認結果を踏まえた有効な支援策を具体的に説明してほしい」や「併せて営農意向調査を行う方向で進めたい」等の意見があり、年度末の協定の集会でそれらを実施することになりました。

農業改良普及課は、引き続き関係機関と連携して、ハードやソフトの両面から農地を守る仕組みづくりを支援していきます。

ニラの葉先枯れ対策に向けて一歩前進！ ～東山農園の次世代型ハウスから～



次世代型ハウスにおけるニラ栽培状況

ニラ栽培では炭酸ガスの施用により増収効果が認められていますが、葉先枯れの発生が助長され、品質が低下することが問題となっています。

そこで、環境制御機器が整備されている東山農園次世代ハウスで、12月2日、暖房と炭酸ガス施用について、農園、JA、農業改良普及課とで協議しました。特に厳寒期のニラ栽培では、温度が低く、相対湿度が高めに推移することから、暖房機を利用した変温管理を実施しました。その結果、12月25日からの収穫分では葉先枯れは一切なく、品質の高いニラが生産できました。

農業改良普及課は、今後も生産者、関係機関と連携して、炭酸ガス施用下におけるニラの葉先枯れ対策技術を確立します。

春期の青ネギべと病対策を再確認



各自の反省や工夫を情報交換

1月16日、JA土佐香美土佐山田支所において、JA野菜部会青壮年部が青ネギの勉強会を開催し、新規就農者を含む11名が参加しました。

農業改良普及課では、昨年までのべと病の発生経過、薬剤ごとのコストと特性を踏まえた、防除計画について助言しました。参加者からは、「発病前の予防で効果が高かった」、「今年は防除スケジュールを早めたい」などの声が聞かれました。

農業改良普及課は、青ネギの周年安定生産に向け、今後も若手農家を中心とした組織活動を支援していきます。

菰生米研究会定例会を開催しました



議論を交わすメンバー

1月16日、J A土佐香美香北支所において、レンゲ緑肥の栽培への活用を検討している菰生米研究会が定例会を開催し、生産者11名が参加しました。

農業改良普及課は、今年度のレンゲ緑肥の利用状況と食味値調査の結果を報告しました。生産者からは、「緑肥を活用しつつ食味を向上するにはどうすればよいか」などの質問があり、活発な議論がされました。

また、今回の会では、栽培技術の検討とともに、研究会統一パッケージの作成や販売計画が提案され、来年度から実施することとなりました。

農業改良普及課では、引き続き緑肥作物を利用した水稻栽培暦の作成や、活動認知への取り組みについて支援します。

J A土佐香美露地みかん部会役員会開催支援



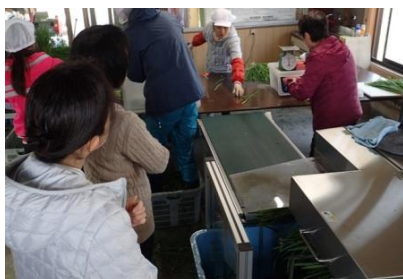
役員会の様子

1月13日J A土佐香美山北果樹センターにおいて、露地みかん部会の役員会が開催されました。部会の生産者役員11名とJ Aが参加し、本年度作の振り返りと反省、今後の取り組みについて協議されました。

農業改良普及課から部会役員に、めまぐるしく変わる産地内外の状況の変化に、「山北みかん」のブランド産地として部会が維持発展していけるのか考えてもらいました。その結果、次年度の取り組みとして改めて現状調査による部会の状況把握と、将来に向けた取り組みを検討することを合意しました。

農業改良普及課は、この活動を次年度の普及計画に位置づけ、J Aと連携し露地みかん部会の活動が充実するよう支援していきます。

岩村ニラ女性部が現地検討会を開催



間近に機械を確認する生産者

J A南国市ニラ部会岩村女性部の現地検討会が1月19日に開催され、生産者7名が参加しました。

地区内で調製作業機を導入した生産者の作業場において、機械導入についての意見交換がされました。導入農家からは、導入に至った理由や現状が報告され、参加した農家からは、「時間当たりの処理量は」、「作業にかかっている人数は」といった質問が聞かれました。

農業改良普及課からは、他産地での導入状況や機械導入農家の事例紹介をしました。

今後も農業改良普及課は、ニラの安定生産に向けて支援していきます。